

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp
第 11 号 平成 30 年 2 月 23 日発行



行事の見直しと授業時数

校長 一谷 浩之

学校で教えるべき教育内容や授業時数は法律や学習指導要領で定められています。現在の学習指導要領は平成 23 年から完全実施されたものです。それまでの年間授業時数から 1～2 年生で 70 時間、3～6 年生で 35 時間増加し高学年では新たに外国語活動が追加されました。そのため、それまでの時間割では学習内容を消化することができなくなってきました。

それを解決するために多くの学校で行われたのが行事の見直しです。今まで授業時数以外の時間（行事時数、臨休への備え）を利用して行っていた各種行事を再編し、授業時数を確保する必要性がありました。保護者の皆さんが小学生だった頃に比べると子ども達が学校で学習する時間は大幅に増え、授業時数以外の時間は大幅に減っているということです。さらに 2020 年から実施される次期学習指導要領では 3 年生以上が更に 35 時間増えることになっています。中高学年では学習する内容が大幅に増え単純に計算すると毎日 6 時間授業にしなければ授業時数を確保できない可能性も出てきました。

これから激変する未来を生きる子ども達にとって必要な力を確実に身に付けさせるためには、学習内容が増え授業時数が膨らむことは必然でもあるのです。子ども達が生き抜く時代の要請により総合的な学習、外国語科のような新しい領域の学力が求められ、今までのような「何を知っているのか」では無く、身に付けた知識技能で「何ができるようになるのか」が問われる学力観が必要なのです。

さて、先に述べた 2020 年からの新学習指導要領を実施するためには、①更なる行事の見直しを行う。②毎日 6 時間授業を設定する。③夏冬休みを短縮する。④土曜授業を実施する。等を各自治体は検討しています。又、すでに実施している自治体もあります。苫小牧市でも全市的な検討を進めているところですが、各学校が地域や児童の実態を踏まえながら日課や行事を工夫するなど特色ある教育活動を進めていくことが求められています。

保護者の皆様には自分の子ども時代の行事、学校生活と比較し学校評価アンケートにご意見を書かれている方が多いと思います。そういう私自身も学級担任時代はたくさんの行事の指導に熱中し準備の時間をたっぷり使い、良い発表を作ることに喜びを感じていました。今、日本の義務教育が置かれている現状と子ども達一人一人に確かな生きる力を身に付けさせるためにご理解を戴き、今後も清水小学校の取組へのご協力を心からお願い致します。新年度は運動会や家庭訪問の改善に着手する考えです。

